

## 水防災に関する情報の入手方法

### 【地上デジタル放送】

身近に河川情報を入手し、適切な避難行動に役立ててもらうために、放送局と協力して地上デジタルテレビのデータ放送による河川情報の提供を行っています。

### 【XRAIN (XバンドMPLレーダ)】

中部地方整備局では、ゲリラ豪雨、局所的集中豪雨対策として、従来の広域レーダに加え、より早く、より詳細に降雨状況が観測できる、XバンドMPLレーダ雨量計の観測情報をインターネットで配信しています。

<http://www.river.go.jp/xbandradar/>



### 【川の防災情報】

近年頻発している大雨・集中豪雨による水害、土砂災害時の避難勧告や迅速・的確な避難等に役立てていただくため、「雨量」「河川の水位」「洪水予警報」等の情報をリアルタイムで提供しています。

<http://www.river.go.jp/>

<http://i.river.go.jp/> (携帯版)



### 【庄内川河川情報】

庄内川の「雨量」「河川の水位」「CCTVカメラ画像」等の情報をリアルタイムで提供しています。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/kasen/web/index.html>

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/kasen/i-mode/top.htm>



### 【きずなネット防災情報】

名古屋市内の「避難勧告」「避難準備情報」等、および消防・防災お役立ち情報をメールでお届けします。

[m.saigai@cep.jp](mailto:m.saigai@cep.jp) (空メールを送信し、返信されるメールで登録)

または、右のQRコードから空メールを送信し、返信されるメールで登録



### 【みずから守る防災情報メールサービス(愛知県)】

愛知県内の大雨、洪水、土砂災害などの防災情報を携帯電話・スマートフォンにメールでお知らせします。

[ml-entry@mail.kasen-owari.jp](mailto:ml-entry@mail.kasen-owari.jp) (空メールを送信し、返信されるメールで登録)

または、右のQRコードから空メールを送信し、返信されるメールで登録



### 【ぎふ川と道のアラームメール(岐阜県)】

岐阜県内の大雨、洪水の情報をメールでお知らせします。

[t.gifu@sg-m.jp](mailto:t.gifu@sg-m.jp) (空メールを送信し、返信されるメールで登録)

または、右のQRコードから空メールを送信し、返信されるメールで登録



国土交通省中部地方整備局  
庄内川河川事務所

〒462-0052 名古屋市北区福德町5-52 TEL052-914-6711  
ホームページアドレス <http://www.cbr.milt.go.jp/shonai/>

# 庄内川水防災フォーラム

～“名駅地下街の浸水”タイムラインで命を救えるか～

開催報告



平成27年3月

国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所

# 庄内川水防災フォーラム

～“名駅地下街の浸水”タイムラインで命を救えるか～

日時: 平成27年2月18日(水) 14:00~17:00

主催: 国土交通省中部地方整備局、国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所

協力: 名古屋駅地区街づくり協議会、名古屋駅地区防火・防災管理協議会、一般社団法人中部地域づくり協会

平成27年2月18日(水)、名古屋市千種区にある今池ガスビル9階の今池ガスホールにおいて、「庄内川水防災フォーラム」を開催しました。

近年、集中豪雨による浸水被害が頻発していますが、庄内川が決壊した場合、庄内川流域で最も資産の集中する名古屋駅周辺が浸水することが予想されていることから、地下街利用者などに対して何が出来るかを議論することを目的にしたものです。中部圏の企業や行政の防災担当者、学生、一般の方々など約260名が参加しました。



## 1.主催者挨拶

国土交通省中部地方整備局長 八鍬 隆

我が国は自然災害に対し脆弱な国土条件にあるうえ、近年雨の降り方が激甚化しており、大規模な豪雨災害が頻発しています。名古屋市においても、平成12年の東海豪雨による床上浸水や、平成25年の集中豪雨による名古屋駅、栄などの地下空間への浸水など、多くの被害が発生しています。こうした状況を踏まえ、国土交通省では、最大クラスの大雨に対して、命を守り社会経済の壊滅的な被害を回避するために、タイムラインの策定を推進していく方針を打ち出しています。このフォーラムでは、名古屋駅への浸水を想定し、タイムラインを活用して何が出来るか、また何をすべきかにつきまして、各分野の第一線でご活躍の方々からご教示を賜り、会場の皆様とともにその必要性と活用のあり方につきまして考えていきたいと思います。



## 2.基調講演「アメリカハリケーン「サンディ」の報告」

国土交通省水管理・国土保全局 海岸室長 井上 智夫

私は普段、津波・高潮に対する防災や災害対応に携わっていますが、諸外国の防災事例を日本の防災政策に役立てようと、アメリカのハリケーン「サンディ」の調査を行いました。「サンディ」は2012年10月、大都市ニューヨークに上陸したハリケーンで、アメリカ全土及びカナダで多くの方が亡くなり、地下鉄や地下トンネルなどが高潮で水没するなど大きな被害をもたらしました。そのなかでも、ニュージャージー州のある町では、住民を事前に避難させ被害者を出さなかったことや、ニューヨーク市内の地下鉄を管理するMTA(都市交通公社)では、いち早く交通網を復旧させたことなど、学べき点があります。これは、アメリカにおける災害対策の特徴(次の5点)が生かされたものだと考えられます。

- ①平常時からの災害リスク評価 ②災害対応実施の権限と予算執行責任の現場への委譲
- ③意思決定支援体制の構築 ④災害発生前の段階からの対応強化の体制づくり
- ⑤将来の災害対応のための検証

上記に留意して計画されたタイムラインに基づき、「サンディ」のケースでは上陸1週間前に注意報、3日前に知事が緊急事態宣言、1日前に大統領が緊急事態宣言を出し、企業、住民に対応を促し、交通機関の運行停止を指示するなどの準備を行っていました。それが早い復旧と最小限の被害に繋がっています。これは国の政策だけでなく、各事業体でも同様に行われています。大切なのは、空振りでもかまわない、事前にできるだけの準備をしましょうという、行政、企業、住民、全てのコンセンサスであり、それを全体に見える化したものがタイムラインであるといえます。住民や企業への周知、近隣市町村との連携、体制の整備など、全ての準備を災害の前に行い、万が一に備えることが理想的な災害対応ではないかと考えます。

それを実現するためには、災害の検証も必要です。改善点を抽出し、そして次の災害の対応に生かすことが重要な点であると思います。タイムラインは計画をしたらそれで終わりではなく、訓練で使い、何度も議論、検証していくことが非常に重要です。そのような防災文化、防災社会を皆様と一緒に作っていききたいと思います。



## パネル展示

ロビーでは、東海豪雨や近年の水災害に関する当時の被災状況や、国土交通省の活動内容などを紹介したパネル展示を行いました。



## 3.パネルディスカッション

■コーディネーター	NHK解説主幹 山崎 登
■アドバイザー	CeMI環境・防災研究所 副所長 松尾 一郎
■パネリスト	国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所長 高橋 伸輔
	名古屋地方気象台長 内田 裕之
	名古屋市西消防署長・元名古屋市消防局防災室長 木全 誠一
	名古屋駅地区街づくり協議会 事務局長 藤井 修
	気象予報士 植木奈緒子
■ゲスト出演	名古屋駅地区防火・防災管理協議会 幹事 松田 諭
	近鉄ビルサービス株式会社 田川 強



### ●名古屋駅地下空間の浸水について

- 【高橋氏】 200年に一度の規模の降雨により庄内川が決壊したと想定した、シミュレーションにより、名古屋駅周辺は浸水する危険性がある。その到達時間はおよそ2時間であり、5時間後にはおよそ2mの浸水が予想されている。
- 【藤井氏】 街づくり協議会は名古屋駅を中心として東西約1km、南北約1.5kmの範囲が対象エリア。昭和32年に全国初の地下街として誕生してから拡張に拡張を重ねたため、段差が多く非常に複雑な地下空間である。便利で快適である一方、避難経路が分かりづらいのが特徴。

### ●地下空間が浸水したらどうなるか？

- 【田川氏】 平成11年、福岡駅近くの宿泊施設の設備管理責任者を担当していたが、御笠川の氾濫により建物が水没。設置した土嚢を超えて水が流入、地下の電源設備が使えなくなり、復旧には長い時間を要した。水害後は止水板を設置するなどの対応をした。
- 【植木氏】 地下街は便利で合理的ではあるが、外の様子がわからない特別な空間であり、浸水の危険性についての意識は低い。平成20年8月末豪雨を体験、子を持つ母として危機感を募らせている。
- 【内田氏】 過去40年間のアメダスデータから、短時間の大雨は増加傾向にあるといえる。台風や発達した低気圧に伴う大雨の予測精度は高くなっているため、最新の雨量予測を活用してほしい。
- 【木全氏】 名古屋市では、平成12年の東海豪雨という未曾有の浸水を経験した。避難勧告が伝わらず、避難所開設の遅れなど多くの課題があった。浸水被害を受け、貯留施設の設置、下水処理能力の増強など、ハード面での整備を現在も行っているが、それでも1時間60mmの雨に対応するのが限界で、100mmを超えるようなゲリラ豪雨では被害を避けられない。
- 【松尾氏】 都市の水害は起こるもの。脆弱箇所を明らかにしたうえで、命を守る、経済被害を最小化する「タイムライン防災」の考え方が必要。今の日本は、「現象発生後追いつき型」。先を見越した、早め早めの防災対応が必要である。

### ●名古屋市でのタイムラインの取り組み

- 【高橋氏】 タイムラインを庄内川でも活用していくために、これまでに6回程、検討会を行っている。東海豪雨の反省点を踏まえ関係機関と議論を重ね、図上訓練を通じて課題を抽出しているが、地下空間に関しては、さらなる議論が必要だと考えている。
- 【藤井氏】 平常時から河川氾濫や豪雨を想定した対応の強化を図ることが大切で、被害想定やアクショントリガーの共有が必要。そのためのツールとしてタイムラインは有効である。タイムラインを各民間事業者がチェックリストとして活用することが重要で、エリア防災、減災につなげていきたい。
- 【松田氏】 平成20年8月の集中豪雨で地下施設が浸水した経験があり危機感を持っている。タイムラインを検討するうえでの課題は、各施設・組織に共通の行動開始基準の設定、また、365日、24時間体制での降雨・冠水状況の把握である。
- 【木全氏】 名駅地区は人が多く集まる場所であり、地下施設は複雑なため、迅速に安全に避難させることは大きな課題。タイムラインが行動につながれば効果があるだろう。ただ、様々な人を同じベクトルに向かわせる方策や、行動起点のトリガーは何かを議論すべき。
- 【内田氏】 気象情報を活用し具体的な防災行動に結び付けることに関しては期待できるもの。ただし、気象予測には限界があることもご理解いただきたい。気象台としては予測精度の向上と、気象情報の意味、利用の仕方、方法について、さらなる周知広報活動に努めていきたい。
- 【植木氏】 対応の遅れが命取りになるので、住民の安全のためにタイムラインの取組を是非進めてほしい。同時に、住民にどのような取組のかを浸透させる必要がある。気象情報などを個々に取得して行動することも重要。自分達の安全は自分達で守る時代が来たのでは。
- 【松尾氏】 タイムラインを活用することでこれまでの多くの課題が解決されるが、普及させるには課題はある。
  - 1.他の災害へどう適用するか。2.地区・自治会タイムライン策定と手引きなどの整備。3.法制度面での後押し。
  - 4.「99回外れても1回当たればよい」という住民意識へ。5.行政トップの(防災)意識改革。

### ●コーディネーター山崎氏のまとめ

- これまでの水害取材やパネリストの方々からの発言から、次の点が重要であると感じている。
- 1) これまでの水害において「たまたまうまくいった」という防災対策はひとつもなく、事前の準備が必要である。
  - 2) 雨の災害は事前に対策を取ることが出来るのが特徴。情報をきちんと生かすことができれば災害を減らすことができる。大都市・名古屋市でのタイムラインを活用した取組は非常に興味深い。これからの日本における防災対策の試金石になるだろう。